

# 国立大学法人信州大学 令和4年度完了報告書

令和4年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

## 1. 調査研究概要

児童生徒・地域の実態・社会環境の変化等の状況に対応し、臨機応変にカリキュラムを編成しICT等を効果的に活用した教育実践や情報活用能力の育成を重視した教科横断的な授業の実践化に向けた研修プログラムの開発を目指した。

令和3年度の実践研究から、教員個々が地域の教育資源を教材開発した教育実践は、教員個々の特定性の中での成果として評価されることが多く、学校文化としての教育実践の継続性が低く、カリキュラム・マネジメントの観点から、教育内容や単元の構想等に関わる授業設計の基本姿勢等の共有化が改めて課題となった。

そこで令和4年度は教育実践の背後に潜む教師の教育観や教材開発のノウハウを共有化することで、「〇〇学校の教育課程の特色」を長野市内の各校が創造できるようにするための研修と教育実践のあり方について探ることとした。

具体的には、教育センターでの集合研修で、令和2年度に開発したテキストの有効活用と指定実践校の実践報告を連動させた形の研修講座を開設し、長野市内の各校においては、教育センターの集合研修等で得た知見をOJT研修として水平展開することで、教科内容の系統性、地域素材を活用した教育内容の教科横断的な展開のあり方やICTの有効活用について、教職員個々がカリキュラム・マネジメントとは何なのかを意識化する体制の構築を試みた。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	※教育センターにおける集合研修(4/21) (教育実習指導を活用したカリキュラム・マネジメント研修の在り方について)

5月	第6回カリキュラム・マネジメント検討会議(検証推進について)(5/17) ※研究実践校における授業実践。 文部科学省による連絡協議会(5/30) 第12回研究推進会議(年間指導計画の確認等)(5/30)
6月	第13回研究推進会議(研修テキストの検証①・ICT活用とグランドデザインについて) (6/22)
7月	第14回研究推進会議(研修テキストの検証②・教科横断的な学びについて)(7/14) 第7回カリキュラム・マネジメント検討会議(研修教材の検討等)(7/28)
8月	第15回研究推進会議(学校段階での系統性について、ICTの効果的な活用について) (8/18)
9月	第16回研究推進会議(ICTを活用した授業の在り方の検討等)(9/20)
10月	第17回研究推進会議(実地調査に向けて)(10/3) 第8回カリキュラム・マネジメント検討会議(教員の資質・能力の育成について) (10/14) 文部科学省による実地調査(長野市立東北中学校)(10/20)
11月	第9回カリキュラム・マネジメント検討会議(学校段階の系統について)(11/7) 第18回研究推進会議(地域資源の活用についての成果についての検討)(11/22)
12月	第19回研究推進会議(発達段階に応じた指導と学習評価について等)(12/6) 第20回研究推進会議(研修テキストについて)(12/28)
1月	第21回研究推進会議(研究のまとめに向けて)(1/17) ※実践校での授業実践成果の確認。
2月	第10回カリキュラム・マネジメント検討会議(研修テキストの確認・各実践校のまとめ)(2/16) ※研究実践校の教員に聞き取り調査。
3月	第11回カリキュラム・マネジメント検討会議(3/3)

## 2. 調査研究の内容

### 実践校【長野市立松代小学校】

#### (1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等(目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など)の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

#### (2) 調査研究の内容

長野市教育センターが昨年度作成した「カリキュラム・マネジメントハンドブック」を活用し、長野市教育委員会の教育振興基本計画に基づいた学校経営グランドデザインの設計

と情報活用能力の育成に関わる到達目標の設定や、目標に即した系統性を重視し、地域の教育資源を活用した教育課程を教職員全体で編成し教育実践を試みる。また、開発した地域教材や教育プログラムを共有し、教材開発の効率化と教育実践の充実に向けての方策を探る。

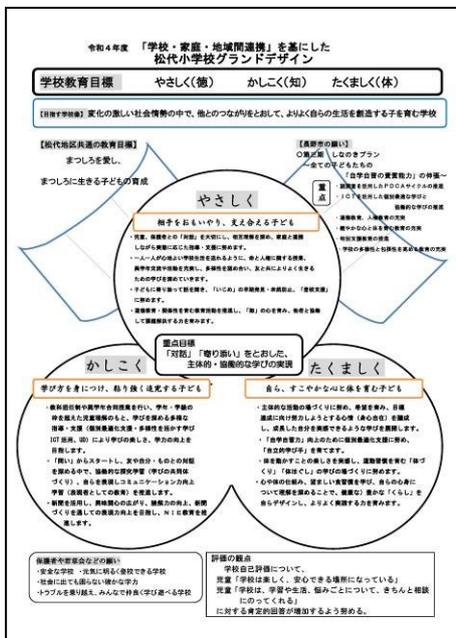
### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

#### [成果]

##### ① グランドデザインの作成・点検に関して

校長の異動に伴い、令和3年度内に「学校の概要、子供たちの学びの姿、現在取り組んでいる研究の内容、取り組みの経緯」等学校運営の基盤について校長、教頭、教務主任が分担して資料を作成し、新任の校長に対して事前説明を行い、新任校長が学校文化として継承していく内容と新たに取り組みたい内容について円滑に引継ぎができるように努めた。特に、研究の概要、研究に係る外部機関との連携については、継続性が維持できるように配慮し、令和4年度当初の新年度準備において、前年度までの取り組みを継承しつつ、子供たちの学びの姿を捉えながら随時更新していく方針が新校長から示され、子供の実態からグランドデザインを見返すカリキュラム・マネジメント研修が校長を中心に展開され、校内・外研修の機会が充実した。

結果、教育方法と子供理解の観点から、これまでの研究を踏襲しつつ「課題解決型学習」と「探究的学習」の2本柱で授業改善を図り、個別最適な学び、個に応じた指導の在り方を探る方向性が研修の中から浮上し職員会で検討した結果、6月には学校運営の方向について全員で考えていくためにグランドデザインのレイアウトを変更することが決まり、誰もが「何をするのか」「どこに向かうのか」がイメージしやすいデザインへと変更された。



##### ② 教育実践の系統性と連続性について

学校と地域社会が連携した生活科・総合的な学習の時間を核としたカリキュラムづくりに取り組み、生活科・総合的な学習の時間と他教科のどの学習内容と関わらせて学びを進

めたかという視点で、自分のクラス、学年の年間指導計画の見直しを行った。結果として、各教科の学習を、子供たちの学校生活や生活科・総合的な学習の時間とは別のものとして設計・展開するのではなく、相互に関連付けることが、より効果的な学びとなると意識化することができた。

### ③ 地域素材の教材化と授業実践の共有化について

地域に根ざした体験活動を重視した以下の授業実践が、他の教員の授業設計や教育実践(学習内容の継続性)の参考になるように、実践者の教材開発の視点や授業展開に際する教育観等を授業実践のデータとして残すことを試みた。

1年生 生活科 「神田川となかよし」

2年生 「大豆をそだてよう」「太鼓を演奏しよう」

3年生 松代ガイドブックをつくろう

4年生 長いも農家

5年生 「米づくり」

6年生 「真田信之松代入部400年記念祭参加」「真田節を踊ろう」など。

### ④ 全体としての成果

- ・ グランドデザインで示した「学び方を学び、自分の学びをデザインする力の育成」について、グランドデザインのレイアウトを教職員全員で議論し変更したことで、「何を」「どのように」「どうやって」を教員だけでなく、子供や保護者も理解しやすくなり、子供たちの「自学」の学びを楽しんで行うようになり、広がりや深まりが見られるようになった。
- ・ カリキュラム・マネジメントに関わる資質・能力の向上に向けての研修を型として考えるのではなく、OJTとして捉えて日々の行動に定着させることを目的に、教務主任が授業参観・支援に加われる時間を確保したり、空き時間だけでなく、休み時間や放課後等、互いに気づいたことや思うことがあれば意見交換を行うようにしたり、職員連絡会の時間を短縮することで、15～25分程度授業づくりや本校の教育課題についてフリーターキングを行う時間を確保したりした結果、教師同士の授業観や困りごとなどを話す機会が増え、教育実践の充実に大きく寄与するようになった。

## [課題と改善方策]

### ① グランドデザインの設定について

「自学」について、学習時間の改善等教育課程上の物理的な改善が行われたことから、子供たちの学習に向かう意欲が推進されたが、カリキュラム・マネジメントの観点から「自学」の内容、教科等の学習との連続性について、改めて教科の目的を再検討し、充実を図っていく必要がある。

### ② 地域の教育資源の活用と教育実践の継続性について

開発した教材や教育実践を、実践者個人の業績に留まらせず、学校の文化として継続していくために、手間はかかるが展開された教育実践の背後にある教育観や地域素材を教育センターのデータベースに登録することで共有化をより一層進めていく必要がある。

#### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	グランドデザインの確認
5月	地域の教育資源の教材化と授業実践と校内研修
6月	
7月	グランドデザインの点検
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	グランドデザインの点検
1月	
2月	授業実践の振り返り
3月	来年度に向けての授業計画立案とグランドデザインの検討

#### 実践校【長野市立東北中学校】

##### (1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

##### (2) 調査研究の内容

地域の教育資源を活用し、わかる喜び・学習意欲の向上を目指し、各教科における見方・考え方を重視したカリキュラム編成と授業実践の在り方を探る。

##### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

[成果]

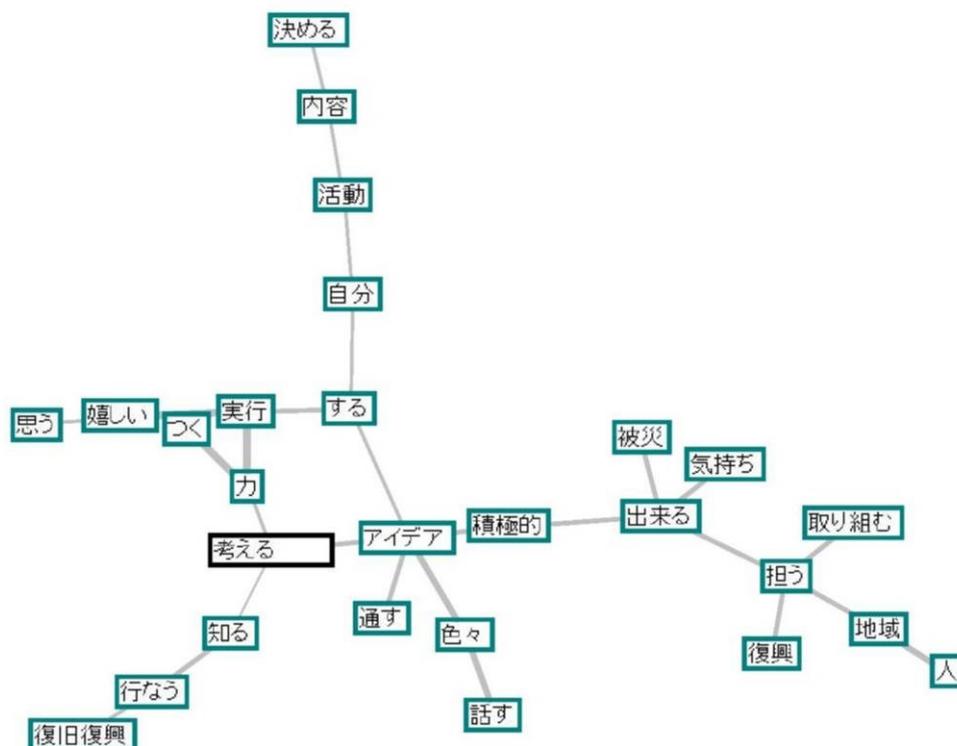
###### ① 地域の教育資源の活用について

2019年の台風19号での学区内千曲川堤防決壊による被災経験から、学校と地域が「共助」できる地域との連携を推進する中で、「復旧・復興」をテーマにした総合的な学習として「ハッピーフラワープロジェクト」等の「探究的」な学習が定着した。

地域の方など外部人材の支援による体験的な学習「ハッピーフラワープロジェクト」を、継続性を持たせた生徒主体の学習活動へ深化させようと試み、教師も生徒もともに継続・深化させていくことに意義がある学習という意識が醸成された。

テキストマイニングの結果から、生徒たちは、地域の人たちと積極的に関わることで、いろいろとアイデアを考える機会を得て、実行力もついてきたと感じている姿がうかがえる。

※総合的な学習の時間テーマ「復興」のまとめ（3学年生徒の感想を「トレンドリサーチ」でテキストマイニングした結果）



② わかる喜び・学習意欲の向上に向けた学習について

総合的な学習を地域との共助という観点で推進していることから、教科学習との関連を探った。

- ・国語 1学年「聞き上手になろう」（インタビュー）  
「話題や展開を捉えて話し合おう」（グループディスカッション）  
2学年「国語の学びを振り返ろう」テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る  
3学年「合意形成に向けて話し合おう」課題解決のために会議を開く
- ・社会科 地理分野「身近な地域の調査」

[課題と改善方策]

① 地域の教育資源の活用について

地域との連携で展開したことで、地域が抱える課題の解決に向けて生徒たちの学習活動は広がりを見せてきたが、教師が課題と感じている生徒自身の発案による学習活動への深化は、教師側の学習に対する意識変革に向けた共通認識を図ることの難しさから、スピード感が鈍いが、校内・外の研修等でカリキュラム・マネジメント研修の充実を図ることで進めていくことがより必要といえる。

② 教育実践の継続性について

これまでの教育実践は単年度で括られ、教員が変わると継続されなかったことか

ら、実践内容等を公開データとして残していくことを試みた(教育会雑誌への投稿等)。教師の資質・能力向上に向けての校内研修の充実については、中学校の現場としては時間確保の困難さが大きな障壁となっていることから、教育活動全体の教師の関わる時間配分の改善等一層検討し改善していく必要がある。

③ 各教科における見方・考え方を重視したカリキュラム編成について

「学びの個別化最適化」と「個別学習」との違いや教科等横断的な学習指導等に関わる共通認識が確立していないことから、カリキュラム・マネジメントの視点からの教師の意識改革のための校内研修の充実を図ることが必要である。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容	
4月	グランドデザインの確認・総合的な学習の活動内容と展開についての確認。	
5月	↓ 地域の教育資源の教材化と授業実践と校内研修	
6月	↓	
7月	グランドデザインの点検	○第1回三つ葉タイム
8月	カリキュラム・マネジメント校内研修	
9月	↓	
10月	文部科学省による実地調査(10/20)	○第2回三つ葉タイム
11月	↓	
12月	グランドデザインの点検	
1月	↓ 教師の三つ葉タイムの振り返り	
2月	↓ 授業実践の振り返り	
3月	↓ 来年度に向けての授業計画立案とグランドデザインの検討	

実践校【長野市立長野中学校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等(目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など)の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

小・中・高校を一貫する情報活用能力育成のカリキュラムの開発と、教科横断的な内容を能動的に展開するPBLの展開を試みる。

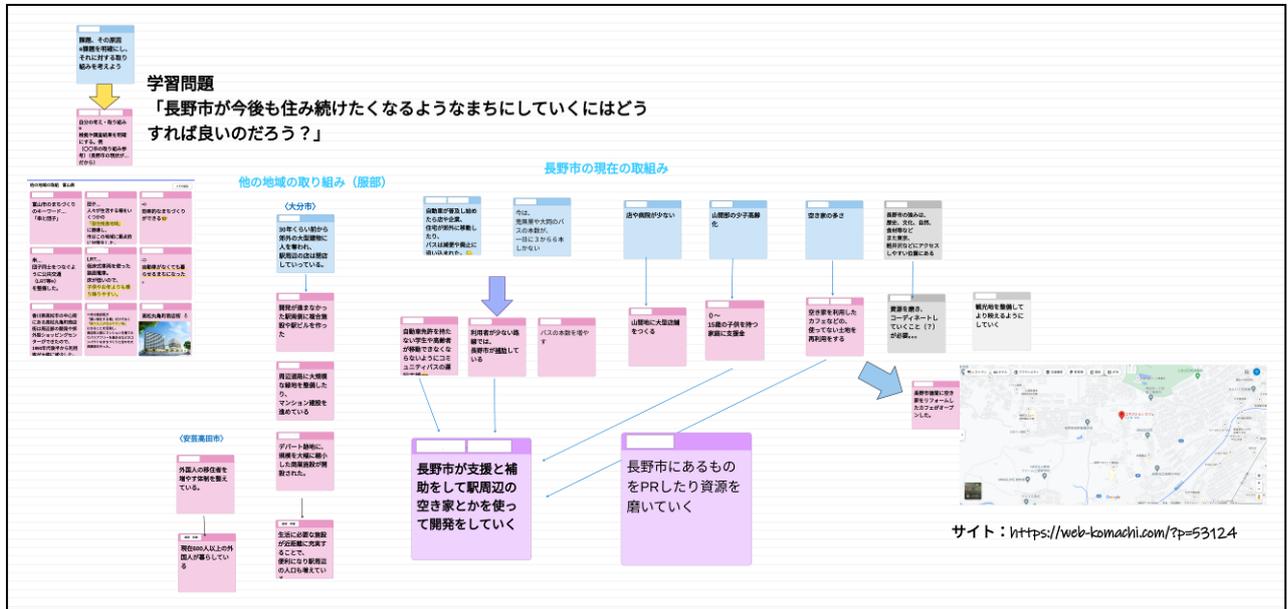
(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

[成果]

- ① 情報活用能力育成のカリキュラムの開発について

Microsoft Teamsを活用し、逐次生徒が学習成果(個々の考えや調査した成果等)をクラウド上にアップロードすることを習慣化させたことで、自由進度学習やジグソー学習等多様な学習が展開され生徒個々の学習が充実したとともに、生徒間の情報の共有が活発に行われるようになった。

[社会の学習におけるグループ学習でのシートの活用例]



② 教科学習と総合的な学習の時間の内容との連続性について

総合的な学習の時間「翼プロジェクト」は、地域社会と連動した体験型学習で構成されたPBLであるが、これまで教師も生徒も教科の学習とは独立した学校の特徴ある教育活動という視点で学習が展開されてきた。そのため、カリキュラム・マネジメントの観点からみると、教科学習は教科書ベースで教育課程が編成され、「翼プロジェクト」の学びは教科学習とは別途に中高一貫した系統で教育課程が編成されていて、非効率的な教育課程の運営状態であったことから、教科学習と「翼プロジェクト」との連動性を意識した教育活動の展開を試みた。

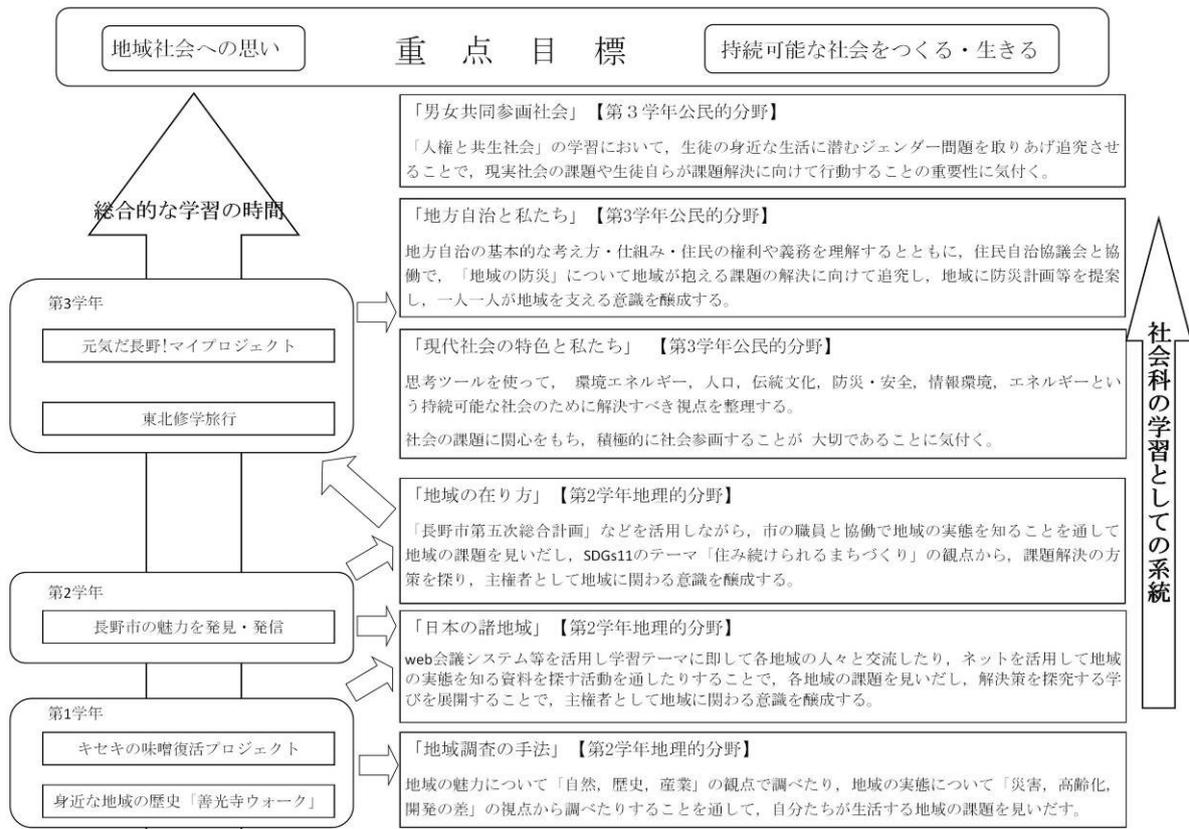
たとえば、社会科では「主権者教育」の観点から「翼プロジェクト」との関連性を意識した授業設計を試みたところ、「翼プロジェクト」での活動が教科での学習成果をベースに展開されるようになり、学習の質が充実した。同時に、社会科の学習では「翼プロジェクト」での学びが生徒の発言や思考の節々に反映されるようになり、学びの深化が見られた。

③ 地域との協働での学習展開

「翼プロジェクト」に加えて、教科学習でも地域との協働での学びの充実を図った。

たとえば、社会の学習では主権者教育をテーマにそれぞれの分野で、地域の住民自治協議会や市役所の企画課と協働で地域の課題を見だし、その課題解決を模索し考えた解決策を地域に提案する学習を展開した。生徒たちは学校での学習に加え家庭学習として地域調査を主体的に展開し、社会を支えるのは自分たちなのだという意識を醸成することができた。

[社会における「主権者教育」を意識した「翼プロジェクト」との学習内容の系統]



[市役所の職員との住みよい町作りについての討論会の様子]



[課題と改善方策]

① 地域の教育資源の活用について

地域の教育資源を核とした学習が、「翼プロジェクト」に特化した形で授業設計されてしまいがちなので、教科学習の成果の上に展開されるものという意識改革が必要で、カリキュラム・マネジメントは、教科の本質・教育内容の連続性と系統性、教科間の関連性を見極める資質・能力という視点を強化するための研修が必要といえる。

② 教科横断的な内容を能動的に展開するPBLの展開について

探究学習の成果が出るとともに、生徒の興味・関心が多様化することから、生徒の関心意欲を重視した多様な学びに対する対応をどのように考えていくかを探る研究が必要となっている。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	グランドデザインの確認・総合的な学習の活動内容と展開についての確認。
5月	地域の教育資源の教材化と授業実践と校内研修
6月	教育課程の見直し
7月	ICT活用やPBLによる授業
8月	カリキュラム・マネジメントに関わる研修
9月	ICT活用やPBLに関わる授業の公開研究
10月	
11月	カリキュラム・マネジメントに関わる研修
12月	▼カリキュラム・マネジメントに関わる研修
1月	▼
2月	授業実践の反省
3月	学習発表 次年度に向けて教育課程の検討

### 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果 ●：課題)

- グランドデザインは年度当初に管理職が決めたもので固定されているものという意識から、日々の教育実践によるPDCAによって適宜変更していくことで、教育効果を上げていくものという意識が醸成され、全教職員で作りに上げていくという意識変革ができた。
- コロナ禍によるGIGAスクール構想の前倒し実施も功を奏し、ICT活用が日常化し生徒間での情報共有による学びの深化がみられた。
- 地域素材の教材化と地域とともに学ぶ学習が充実した。
- 学校としての教育活動の特色を打ち出しやすい総合的な学習の時間の教育内容の充実が図られ、地域との関わりも強化された。同時に、教科の学習と総合的な学習の時間の学びとの連動性も意識されるようになった。
- 校長の異動に伴い学校運営の方針が大きく変わった際の、それまでのグランドデザインに基づいた教育実践の継続性と新体制への移行が課題としてみられた。全教職員がグランドデザインを作り上げるという意識の定着と、細部にわたる引き継ぎも重要であるが、全教職員が教育実践の意義を継承し深化させることが学校文化を創り上げるという意識になるような研修や実践データベースの構築等の充実を図ることが重要といえる。
- 地域素材を活用した教育実践の充実は、教師個人の資質・能力への依存度が高く、教師個人の業績に留まってしまいう傾向が否めない。
- 教育課程の編成に当たって、教科それぞれの目的と系統性を意識することが、教科横断的な学習指導の展開につながることを教育センターで実施する集合研修では扱っているが、依然として教科学習は教科書の内容配列ベースの年間授業計画が主流で、総合的な学習の時間は独立した編成が行われている学校が多く、テキストを活用した各校での伝達講習やカリキュラム・マネジメントに関わるOJT研修の機会を恒常的に取っていく工夫が必要である。